

令和7年度社会福祉法人ないえ福祉会 事業報告

令和7年度は、施設入所事業、共同生活援助事業でそれぞれ地域や関係者の皆様のご協力をいただき、地域連携推進会議を開催しました。地域の方々に法人事業や利用者の暮らしを知っていただく良い機会となりました。

設備の面では、計画していた暖房配管工事やグループホームの修繕など予定通りに終わることができています。そのほか故障により入れ替えが必要となった公用車についても事業に大きな影響もなく更新ができました。

入所者のみならず地域で暮らす利用者も高齢化が進み、単身生活を継続することが困難となりサービスを調整するケースが増えました。法人全体で利用者の生活を支えられるように連携して対応しています。

感染症については、4月にノロウイルス、11月には近隣地域で流行していたインフルエンザA型に集団感染するなど影響を受けた一年でした。地域の流行状況による影響も大きく対策には難しさを感じます。利用者に過度な制限とならないよう配慮した対策を継続しました。

人材確保については、ホームページの更新など法人からの情報発信を積極的に行ったことで3年連続新卒者を採用することができました。

① 障がい者支援施設ないえ

施設入所事業では、5名の利用者が怪我や体調不良などにより入院療養が必要となりました。退院後はストーマの管理や食事形態の変更など、より一層の配慮が必要な支援が増えましたが、誰もが正しい知識で対応できるよう確認し合いながら進めました。経験年数の浅い職員も多いので積極的に研修に参加し、介護技術や強度行動障害のある利用者への支援スキルの向上に努めました。

施設見学などの受け入れは行いましたが、新しい入所者の受け入れまでには至りませんでした。

ハード面では、3ヵ年計画で進めました施設内の暖房配管工事が完了しました。

生活介護事業では、できるだけ屋外での活動を心がけましたが、熊出没の危険性から施設内の活動が多くなりました。施設内でも楽しく体を動かせるように音楽を流すなど工夫をしながら毎日体操や散歩を行いました。作業のほか、モルックや手作りゲームなども取り入れ楽しんでもらいました。今年は5回に分けて新十津川町の温泉へ宿泊し、グループの嗜好に合わせた食事や買い物を楽しむことができました。

養護学校や相談支援事業所などと連携して情報収集に努めましたが、新規利用者の受け入れには至りませんでした。

短期入所事業では、今年度も生活介護利用者と地域の単身生活者の利用がありました。怪我や体調不良による緊急の受け入れもありましたが、法人内の他事業所と連携を図りながら安心してサービス利用して頂けるように努めました。

② 就労支援センターすまっしゅ

就労継続支援B型事業では、5月に1名を迎え、6月に1名が退所しました。10月の日帰り旅行は2回に分けて新札幌へ出かけました。3月のお疲れ様会は数年ぶりに就労事業全員で大型バスを貸し切り旭川のホテルバイキングを楽しみました。

椎茸作業はここ数年順調に売り上げを伸ばしていましたが、令和7年度は椎茸の収穫量が不安定だったことに加え、資材等の値上げも重なり事業収益は落ち込みました。それに伴い残念ながら平均工賃も1万円ほど下がる結果となりました。また、取引業者の都合で菌床の搬入が遅れる事態となり、栽培サイクルの調整が必要になるなど予定通りに進まず苦しみました。そんな中でも、ホームページを見て声をかけていただく機会が多く、販売先の拡張ができました。

ハード面では、夏に公用車2台分の車庫の設置を終えています。

就労移行支援事業の利用者は2名です。実習の受け入れや就労アセスメントで現地に向くなど利用者獲得の努力はしたものの厳しい状況が続きました。一方で喫茶みみずくは、冬期間も職員ランチ等で安定した売り上げを保ち、年度末の椎茸や銅線作業の落ち込みをカバーし、更に全員にボーナスを支給することができました。

就労定着支援事業では、1名が離職しています。

③ 共同生活援助みどり荘

共同生活援助事業では、5月に他事業所のグループホームから女性1名を迎えました。また、男性棟に一室空きがあり、入居希望の声を複数いただいたので、より過ごしやすいよう部屋を改装し、秋に2名の高等養護学生の体験実習を受け入れました。新たな出会いは、発見や驚きや感動、緊張や期待、戸惑いなど色々な感情に溢れましたが、新しいことが盛りだくさんで、賑やかな一年となりました。

ハード面では、フピの省エネ診断を依頼し、結果を受けて屋根裏断熱の強化や熱交換形換気機器のメンテナンスなどを実施しました。また秋に暖房設備の故障がありましたが、機種が古く修理が難しいとのことで既存のエアコンを寒冷地対応エアコンに入れ替えました。雪害により破損した屋根を修繕しました。その他、秋に車両一台を入れ替えました。

奈井江町の「健康な体づくり」の取り組みを活用し、毎月コンディショニングセッションを開催していただきました。今年度は大きな怪我や長期入院、暮らし（サービス）の変更などはなく、老いや進化と上手に付き合いながら元気に過ごされた一年でした。

④ サポートセンターぽすと

居宅介護事業では、概ね安定したサービス提供を継続していますが、定期利用者の病気

や高齢化によるサービスの変更が相次ぎ、経営には緊張感や不安を感じることもありました。安心と自由は背中合わせの一面があります。ご本人の思いに沿わないのではないかと感じる選択に直面することもあり、サポートする難しさを感じます。新規利用の相談は度々あり状況を見ながら受け入れを行っています。一方でキャンセル等も多く予定通りに回らないこともあります工夫しながら進めました。

ハード面では、1月に車両の故障があり更新しました。